

2023 年春学期/オクラホマ州立大学 帰国生アンケート

※注意※ ここで記載されているアンケート回答は**全て個人の主観によるもの**であり、あくまで『参考情報』としてみなさんに開示しています。**正しい情報とは限りません**ので、その点について了承した上で留学準備に活用してください。

1. 授業について

授業の形態や進め方はどんなものでしたか。

1限（スピーキング）が朝9時から始まり、11時に1時間昼休みを挟んだ後12時から2時まで2限（リーディング）をする形だった。ボリビアから来た人が1人いたがそれ以外は日本人だった。先生は各授業に1人ずつの計2人（うちリーディングの先生は帰省したため別の先生に交代）金曜日はアクティビティの日になっていて、フードバンクなどでのボランティアや乗馬、地域の牧場や教会に行ったり、ショッピングをしたりした。

スピーキングと文法の授業で毎日トピックが異なっていた。

授業の形態は先生がパワーポイントなどを作ってそれに沿って授業が展開されていきわからないところはどんどん聞いていくという感じでした。

少人数のクラス方式

自分たちのレベルに合わせてくれていた授業で、リスニングとリーディングがあった。

授業は自分たちのレベルに合わせて先生方がその都度カリキュラムを見直してくれるという形だった。内容は難し方が一つ一つ丁寧に説明してくれるので全くわからないものではなかった。

リスニング、スピーキングの授業とライティングの授業。TOEICやTOEFL対策もあった。

クラス人数、日本人と留学生比率、留学生の出身国などについて教えてください。

自分のクラスはほとんど日本人で一人だけボリビアの方がいた。もう一つのクラスは多くの国（ドバイやホンジュラスなど）から集まっていて、そこの交流が楽しかった。

日本人10人スペイン語話すが1人

クラスの人数は12人で日本人が11人で留学生が1人でその子の出身地がボリビアで授業や校外学習でたくさんコミュニケーションをとって回数を重ねるごとに仲良くなっていきました。ほかのクラスの留学生ともコミュニケーションをとりたくさん交流しました。

一緒に行った日本人全員（10人）と留学生ひとり。もう一つレベルが上のクラスはスパニッシュ圏出身の人たちが沢山いた。

私のクラスは日本人10人とボリビア人1人だった。

私たちのクラスは日本人とボリビアから来た女性一人だった。クラスは二つあり、もう一つのクラスはボリビア人など3か国ほどの国から来た人達がいた。

日本人10人、ボリビアからの留学生1人。たまに違うクラスの留学生との交流もありました。何度か現地の大学生と一緒に授業を受ける機会もありました。

クラスの雰囲気はどんなものでしたか。

積極的な発言や自分の考えが求められる点が日本の授業と違う点と感じた。

聞くだけではなくアグレッシブにならないといけない。

最初の方はなかなかみんな緊張して思うように発言できなかったんですが授業の回数を重ねるごとに慣れていきたくさん発言するようになっていきとても活発になっていきました。わからないところはしっかり手を挙げて先生に聞いたりしていました。先生方も質問したらすぐ答えてくれたのでとても授業が受けやすかったです。

スライドで進めていき、質問に対して考えたり意見を言い合ったりした

にぎやかでいい雰囲気だった。

自分たちの意見を言う場面が多かった。グループワークなどで一人一人の意見を出しみんなでそれがないようにあったものかなど。日本と違うところは少人数のクラスだったので自分の意見が出しやすかった。

自主的に意見を発表する、グループディスカッションなどが多い。

授業の中で取り上げられたトピックで印象に残っているものは何ですか。

タルサでの黒人差別に関してや、アメリカでは人種間での対立が深まっていることなど、人種に関するトピックが印象に残った。黒人街に差別主義者が襲撃したことで突然日常が失われたことや、人種を理由に人間としての扱いや入店などを拒否されることをタルサの博物館で知り、今後このような過ちは繰り返されるべきでないと強く思った。

虐殺事件

授業で印象に残ったトピックはタルサ人種虐殺です。なぜならこのトピックの内容は授業でたくさん調べたりしてグループ発表などで取り扱ったりしたので印象に残っています。

オクラホマ出身のネイティブアメリカンに対する差別

人種差別について。

人種差別のトピックが特に印象に残っている、オクラホマでは昔に差別を受けた人種があり多くの犠牲が出たことやいま世界で起こっている黒人差別のことと絡めて授業を行っていたため、非常に勉強になった。

オクラホマの悲しい歴史の1つである、黒人差別によるタルサ人大量虐殺について深く学んだ

授業を受けるにあたって工夫していたこと、努力していたことはなんですか。

提出物を決められた形式で期限内に提出することに加え、遅刻しないことや、積極的に先生と会話すること、自分の考えていることを正直に答えるなどを努力した。

内気な自分を変えた。アグレッシブになった

自分はあまり積極的に発言できる方ではないのですがこの留学で間違ってもいいから発言してみようと思い積極的に発言できたところが自分的にはかなり成長できた部分だと思っています。授業で分からなかった単語などはノートにメモなどをして見返すようにしていました。

わからないことがあったら積極的に聞いて、発言するようにしていた。

授業を聞く中で分からなかった単語や連語などをメモして先生に聞いたり、授業の後に自分で調べたりしていた。

英語の文法を間違えることを気にせずに、とりあえず手を挙げて意見を言う。もし仮に間違えても先生もクラスメイトもみんな優しいから大丈夫です。

2. 滞在先・自由時間の過ごし方について

ルームメイトはいましたか。	ルームメイトはどこの国の人でしたか。
0人 (1人)	-
1人 (6人)	アメリカ、韓国、セネガル

通学手段	通学時間	主に食事はどこでとっていましたか。
徒歩 (7人)	0~15分 (6人)	大学内のカフェテリア (5人)
	15~30分 (1人)	自炊 (2人)

部屋に用意してあったものは何ですか。	自分で用意したものは何ですか。
到着時にシーツや毛布、ペットボトルの水、クッキーを渡された以外は机と椅子以外特になくシンプルな部屋だった。	パソコンや文房具、衣類など生活に最低限必要なものに加え電子辞書を持参した。翻訳アプリで代用可能なケースも多いが、例文や複数の意味、類語検索をしようとするとそれでは限界があるため、電子辞書は必須だと感じた。
机と椅子	ドライヤー、スリッパ、食器など
部屋に用意したあったものはベッド、枕、シーツなどです。ほかのものは持参したものを使っていました。	自分で用意したものはドライヤー、日本食、衣類などです。
基本的にはベッドと机のみでルームメイトが自分で買ったテレビなどがあつた。	ほとんどの生活用品は自分たちで買わないといけない
机とベッドとたんす	シャンプーとリンス
机とベッド、それにシーツと枕と毛布は大学からもらった。	特に必要だと感じたのは、お風呂道具だ。シャンプーなどは日本のものに比べて海外のものは髪の毛がギシギシになったりした。あとのものは留学先でも手に入るのだから特に困ることはなかった。
ベッド、枕、ブランケット(薄いの1枚)、机、椅子、棚、(ルームメイトが冷蔵庫や電子レンジも貸してくれた)	電気ポット、暖かい冬服(朝と夜が本当に寒い)、日本食(結構多めに持っていった方がいい)、充電器等、お風呂セット、化粧水、乳液、化粧品、日焼け止め、洗濯ネット、ラーメンなどをチンして作れる容器(百均に売ってる)、日本のお土産(現地の友達にあげたら喜ぶ！)(タオル類は現地で買える)

大学寮生活をする上で、日本と違って戸感ったこと、驚いたこと。
現地で誕生日を迎えたが、その際に非常に多くの人たちが祝ってくれたことに驚いた。おかげさまで二十歳の節目を晴れやかな気持ちで迎えることができた。
特になし。
まずトイレにウォッシュレットがついていないことに驚きました。ルームメイトと共有して部屋を使うことも初めてだったので色々なルールなどを決めたりして大変でした。
お風呂がなく、シャワーのみ
湯船がないこと
トイレは特に問題なく使えたが、お風呂はシャワーだけなので少しだけ使いにくかった。寮で生活するのは初めてだったので、キッチンや冷蔵庫が共用なのが少し使いにくかった。
トイレとかシャワー室は綺麗ではない、でもそれも慣れてくるから大丈夫

大学寮生活を快適に過ごすためのアドバイスをお願いします。
人と接する時間が長くなるため、一人の時間をバランスよく確保する必要があると感じた。また夜中に大きな音を出さないことや、共用スペースを綺麗に使うなど最低限のモラルをわきまえることも必要だ。
肌荒れに注意。水が違うので
みんなと共有した使う施設なのであまり汚さないようにしてください。
ルームメイトとはコミュニケーションをとっておくべき。
ルームメイトとルールを決めておく

寮で過ごす場合は、人によって生活時間が違うので気を使うことが多かった。例えば、就寝時間が違うので、部屋に戻ったらすでにルームメイトは寝ていたりするのでお風呂に入ってドライヤーを部屋で使えなかったり。電機は部屋のメインの電気とベッドの頭の上に電気があるのでまだ良かったが、人によってはつけないでほしいなどいわれていた。なのである程度時間を聞いておくことがいいと思う。

部屋の環境を整えたり、ルームメイトと仲良くなれば徐々に自分の部屋が居心地よくなってきます。でも最初の頃はやっぱりホームシックで寂しいと思うので、できるだけ部屋から出て友達を作る！！

パソコンは持参しましたか	携帯電話	インターネットは部屋から接続可能でしたか。	その際に費用はかかりましたか。
はい(7人)	日本からSIMカードを持参(2人)	ワイヤレスで可能(5人)	いいえ(6人)
	日本の携帯電話をそのまま持参(5人)	LANケーブルで可能(2人)	はい(1人)

大学主催のプログラム/イベント/ボランティア/サークルなど。	学内/学校近辺でよく利用した施設やお店など
図書館で異文化交流イベントがあり、それに度々参加した。友人を増やす良いチャンスだったと感じる。	ウォルマートや大学の売店で買い出しを1週間に一回ほどしたり、図書館で課題をしたりして過ごした。
ボランティアで体が不自由な人の買い物の手伝いなどをしました。	ドンキみたいなスーパーに行った。ウォルマート
街に出たり、周辺を探索したりした	昼ごはんを食べるために student union をよく利用していました。そこで大学の服などを購入したりしていました。
大学のイベントがあれば参加し、ない時は寮でお話をしたりピリヤードをして楽しんだこと	少し歩けばレストランなどはたくさんあったが、遊べるところはあまりなかった
金曜日はアクティビティの日だったのでいろいろなところに連れて行ってもらった。もう一つのクラスの人たちと一緒に英語を話す機会はたくさんあった。	食堂をよく利用していた
学生証を見せたら無料になるバスに乗って少し遠出をしていました	お昼は大学内のカフェで食事していた。晩御飯はよく現地の友達と外食していた。英語を話すいい機会にもなったし、現地のいろいろな食事を楽しむことができた。
	学内の図書館やスタバなどで課題をする！

3. 留学前準備について

留学前に取り組んだ準備
向こうでの学習において遅れを取らないように英語を読む量を増やしたり、頭の中で思考する際に英語で思考するようにした。
とくになし。
先輩方の経験談などの資料を見たりして用意をしていました。
アメリカの文化などを YouTube で調べて見ていた
留学前はある程度生活に必要なものだけを用意して、それ以外は現地で買っていた。勉強面のことでは、私は英会話に通っているのですが、会話の練習などを行っていた。
日常会話で使えるようなスラングを覚えていった

留学前にしておけばよかったと思う準備

会話中に何度も聞き直したり、相手に書いてもらったりすることが度々あったことから、リスニング量を増やすべきだった。

英語力。

もっと何があるか見とくべきだったなと思いました。

単語帳を頑張って読む

現地でもそれなりに物はそろうのでそんなにも心配することはない。日本にしか売っていないもので自分が必要なものはしっかりと揃えておく必要がある。

日本から持って行って役に立ったもの、または喜ばれたもの

レシートプリンター。名前や SNS の QR コードなどの名刺のようなもののデータを作成しそれを印刷して渡すと喜ばれた。

グミ。ハイチュウとか

味噌汁とラーメンを作るための容器です。

電気ポット

自分は寮に住むことが分かっていたのでルームメイトにあげる用に日本のお菓子を少し持って行った。生活面ではお湯を沸かすポットは役に立った。

電気ポットめちゃくちゃ便利！寒がりの人はブランケットや暖かい服たくさん持っていった方がいいです。寮の部屋めちゃくちゃ寒いです。

日本のお菓子は現地の子達が喜ぶ！日本食はたくさん持っていくべき。数ヶ月たったら現地の食べ物に飽きます。

日本から持っていく必要のなかったもの

360 度カメラ。使用機会がなかった。

服。帰国時に増えるので

ドライヤーです。

参考書

レンジを使う白ご飯のバック、これは荷物にもなるのでいらない。もしお米が食べなくなったら現地にも売っている。

ティッシュやコットン等、紙類は現地で買える。その分日本食持っていった方がいい！

日本から持参すればよかったと思ったもの

圧縮袋。帰国時は最初より荷物の量が圧倒的に増えるので必須と考えた。

海外でも使えるドライヤー

ふりかけなどを持っていくべきだったなと思いました。

特になし

綿棒など

保湿ができるバック！オクラホマの冬は本当に空気が乾燥していて、皮が向けちゃうぐらい肌がカサカサになって辛かったです。

4. 留学費用について

お金をどのように準備しましたか。

クレジットカードは家族カードを含め 3 枚あったので、Cash Passport を除けば特に変わったことはせずに普段通りで過ごすことができた。

日本円でいくらぐらい準備しましたか。

クレジットカード上限 100 万円、現金 7 万円ぐらい(割り勘をする時に使う)

クレカ必須、アメリカの現金使う場面はにろんじんどうして割り勘する時	クレジットカード上限 10 万円 2 枚と家族カード 1 枚、現金 10 万円
現金 300 ドルとクレジットカード 2 枚持っていきました。	クレカ 2 枚で生きれる。上限は 30 万いる。
基本的にはクレジットカードと少しの現金を持ち歩いた。	クレジットカード上限 10 万、クレジットカード上限 20 万、キャッシュパスポート、現金 3 万持っていきました。
クレジットカード 3 枚 キャッシュパスポート 現金	クレジットカード(300 万と 30 万と 10 万) 現金 7 万円
クレジットカードは二枚は絶対必要。旅行などする場合は、限はできる限り高くしておいたほうがいい。キャッシュパスポートは少し現金が必要になったときのために必要。基本的にどこでもカードが使えるので現金は多く持たなくていい。	クレジットカードは二枚合わせて50万円、現金は自分は1万円ほどだけ用意した。
クレジットカード 2 枚、キャッシュパスポート、現金	

現地で支払った住居費と食費を教えてください。	テキスト代と通学費はそれぞれいくらぐらいかかりましたか。
寮費でおよそ 30 万円、食費で月およそ 6 万円かかった。	特に決まったテキストはなく、先生がプリントやデータを配布しそれに取り組む形だったので、通学は寮から徒歩だったので料金はかかっていない。
一食 1,500 円	0 円
現地の住居費は二か月で 12 万で食費は二か月で 10 万でした。	テキストはなく通学費も徒歩だったのでありませんでした。
住居費 35 万 食費 15 万	テキストはなくそのつどプリントでもらっていた。通学費は徒歩だったのでかかっていない。
寮のお金はすべてで30万円ほどだった。食費は3食合わせて15~20万円ほどだった。	教科書は使わなかった。通学は徒歩なので0円。

その他旅行や買い物など個人的費用は何にいくらぐらいかかりましたか。
靴や服にトータルで 3 万円ほどと先述した旅費（サンフランシスコとロサンゼルス）でおよそ 30 万円
人による。いやまじで。
ロサンゼルスの旅行は 30 万くらいかかりました。
60 万(旅行 40 万)
旅行はすべてで 40 万円ほどだった。自分のお金は 10 万円ほど使った。

5. 学習面について

語学力・コミュニケーション能力の自己分析
瞬発力がついた。これまでは話しかけられたときや会話中にパッと言葉が出てこず、あまりスムーズでないケースが多々あったが、留学で多くの人と話したことで瞬発力がつきよりスムーズに会話できるようになった。
コミュニケーション能力はあがった
語学力は行った初日よりかはるかについたらと感じました。コミュニケーション能力もかなりついたかと感じました。
寮にいたら常に英語聞こえてくるので、リスニング力は上がったと思う
語学としては人と話すことが多かったため、よくできていた。
語学力、コミュニケーション能力、問題解決力が確実についた。また、異なる国で生まれ育ち異なる価値観をもつ人々との交流を通して、広い視野をもつことができるようになった。

留学前の目標とその達成度

リスニング力の改善を目指していたが、これまで聞き取らず省いていた部分や、聞き返す回数などを削減できたことからそれが達成できたと感じる。

多くの人としゃべれた

留学前の目標はたくさん海外の友達を作ってたくさんしゃべることが目標で達成できたと感じました。

友達いっぱい作ることを目標とし、たくさん作れた

目標は多くの友達を作り、会話をすることだったのでしっかりと達成することができた。

授業での質問やお店での注文など、生きていく上で英語が必要になってくる場面で、躊躇なく英語を話せるようになった。

留学を通しての成長ポイント

集団で行動する力がついたと考える。私はこれまであまり集団行動をしてこなかったが、寮で長時間集団で過ごすうちに、積極的に自分から輪に入るようになり、より円滑にコミュニケーションを行うことができるようになった。それにより今回の留学を通して得た語学力をより高いレベルで活用できるのではないかという自信に繋がった。

人とのコミュニケーションを自分から取れるようになった。

自分は積極性がかなりついたと感じました。

コミュニケーション能力

自分の意見を相手にしっかりとすべて伝えられるようになった。

留学前/留学中/留学後の語学学習に対するモチベーションの変化

以前に増してより積極的に英語を使おうと思うようになった。前まではわからない英単語があってもスルーすることがあったが、留学後は調べようになった。

留学後はもっと英語を学ばないと行けないと思えた。

留学前はあまり洋楽などを聞いてなかったのですが留学後はかなり聞くようになりました。

留学前は日本から離れたくないと思っていたが、アメリカに行ってみて、世界の素晴らしさに気づいて色々なところに行きたいと思うようになった

留学前、留学中、帰国後も変わらずモチベーションはあり、勉強ははかどっていると感じる。

留学前：自分の語学力が不安、ホームシックが怖い。留学中：ホームシックはやっばり辛い、日本の素敵さに気づく、でも徐々に環境にも周りの人間関係にも慣れてくる、自分の許容範囲が広がる、日本にいる家族や友達の有り難さを改めて実感する。留学後：英語で話すことに抵抗がなくなった、一生大切にしたいと思える友達ができた。

留学中 100%力を振り絞った瞬間

留学先大学の授業に参加したことについて動画でレポートを作成することがあり、そのレポートの作成に非常に苦労したこと。期日に間に合わないのではないかという焦りもあったが、なんとか間に合い高い評価を得られた時は達成感を感じた。

最後のプレゼン

プレゼンテーションで原稿などを覚えるときなどは100%の力を発揮したと感じました。

カリフォルニアの旅行でハプニングがたくさんあり、ハプニングがあるごとに解決しようと頑張った

授業でしっかりと自分の意見を発言できたとき。

留学先大学の良かった点

静かな上清掃が行き届いていて過ごしやすと感じた。また、フードバンクや地域のボランティアを通じたローカルコミュニティとの交流が活発なため実用的な語学力が身についた点も良いと感じた。またそのようなアクティビティを通じてフードバンクを利用する、つまり貧困層について理解を深めることができると言ったプラスアルファの学びもあった。

田舎なのでみんな優しかった

留学生がたくさんいて交流できたところがよかったですと感じました。

オクラホマの人はみんな優しい

自分たちがわからないことなどを言うとすぐにカリキュラムを見直してくれた。